

伊勢原協同病院 初期研修プログラム 病理臨床検査

<プログラムの管理・運営>

初期臨床研修 2 年間の間に特に病理臨床検査に関する研修を選択科目として希望する者を対象として1ヶ月間の下記研修を行なう。

<一般目標>

臨床検査・病理診断の臨床医学における役割を理解する。また、それらの基本的知識を習得することにより、臨床医として必要なプライマリ・ケアの知識を広げ、将来的に目指す専門分野に関連して見識を深めることが期待される。

<行動および経験目標>

- 1) 病理解剖を通じて疾患の臓器相関および全身的な把握の仕方を学ぶ。
- 2) 代表的な疾患の典型的な肉眼像・組織像を把握するとともに、臨床データと対比し病態の総合的理解に努める態度を身につける。
- 3) 臨床検査各領域における検査の意義・技術を理解しつつ、それらと代表的な疾患との相関を把握し病態の総合的理解に努める。
- 4) 患者および医療スタッフにとって安全な検査・病理診断実施方法について理解する。
- 5) CPC（臨床病理カンファレンス）や症例検討会に参加することにより、医療の客観的な評価を行い医療の質の向上に努める態度を学ぶ。
- 6) 他科医師およびコメディカルと円滑なコミュニケーションをもつことができる。

<研修スケジュール>

- a) 剖検研修（解剖、切り出し、検鏡、剖検報告の作成といった一連の剖検業務を通じ、人体病理学の基礎的概念を修得する。期間中、1 体以上の剖検を行うことが望ましい。）
- b) 病理診断学研修（臨床各科から提出される迅速・生検・手術検体の標本作製や病理組織検査報告書の作成を行い、指導者の検閲を受ける。また、臨床各科からのコンサルテーションに対応し、症例の問題点につき討議できる。）
- c) 免疫組織化学的観察を指導者とともに行う。細胞診については代表的な症例につき観察を行う。
- d) 臨床化学、血液、免疫血清、一般、微生物、内分泌等の各検査領域の検査を体験し、結果を解釈できるようになる。
- e) 病態に即した検査を適切に選択・実施できる。
- f) 症例の病態・検査結果について適切に説明できる。

<研修評価>

研修終了時に自己および指導医の両方で評価を行なう。

<付記>

病理解剖症例に関すること： 初期臨床研修2年の間に病理解剖症例に基づくCPCレポートの作成と症例呈示が必須とされている。従って当科を研修しない場合でも、他科研修期間に経験した病理解剖症例について、病理解剖に参加することが強く望まれる。補助的立場から解剖の手技を学び、それらの剖検症例の中から適切と思われる例に関して、肉眼所見の整理・組織レベルでの検索を行い剖検報告書を作成する。これらの経験を通して臨床所見との整合性・疑問点を明確にする能力を養う。

<プログラムの指導者>

責任者・指導者

・井野元 智恵